

2022年 国立音楽大学大学院オペラ公演

モーツアルト歌劇

ドン・ジョヴァンニ

K.527 全2幕 (イタリア語原語上演/日本語字幕付)
作曲:W.A.モーツアルト 台本:L.ダ・ポンテ

2022

10/15(土)・16(日) 14:00開演 <13:00開場>

【会場】国立音楽大学講堂大ホール

西武拝島線・多摩モノレール「玉川上水駅」下車徒歩7分
公演当日は学生駐車場(大学正門横)を無料でご利用いただけます。

【全席指定】SS席:4,000円 / S席:3,000円 / A席:2,000円 / 学生:1,000円 (A席より)

※当日学生証の提示が必要です。

【チケット発売】8月19日(金) 10:00より

指揮:小林資典

演出:中村敬一

管弦楽:国立音楽大学オーケストラ

合唱:国立音楽大学合唱団

Staff

声楽指導:岩森美里/加納悦子/黒田博/澤畠恵美/福井敬/望月哲也

合唱指揮:安部克彦

音楽スタッフ:糸原裕介/相田久美子/大園麻衣子/田村ルリ/朴令鈴/

藤川志保/三澤志保/矢崎貴子

振付:堀田麻子

装置:鈴木俊朗 衣裳:半田悦子 照明:山口暁

舞台監督:徳山弘毅 演出助手:古川真紀

Cast 10月15日 10月16日

ドン・ジョヴァンニ : 小林啓倫 大槻聰之介

レポレッロ : 宮城島康 照屋博史

ドン・オッターヴィオ : 福井暖 井戸遼太郎

ドンナ・アンナ : 菅原和奏 竹内菜緒

ドンナ・エルヴィーラ : 別部まゆ子 桑島和美

ツェルリーナ(1幕) : 近藤真未 太田絢子

(2幕) : 矢内玲那 草野七海

マゼット : 島田恭輔 大河原拓也

騎士長 : 和田央 和田央

判らない女は浮氣者だと責めるが、
広い心の持ち主は女全てを愛するのだ。

プレ・トークのご案内

両日13時30分より講堂大ホールにて開催予定

本公演前に《ドン・ジョヴァンニ》の見どころ・聴きどころを、本学大学院オペラ教員よりお話しします。

■ 本公演開催に際しまして留意事項がございますので、チラシ裏面または本学公式Webサイトを事前にご確認くださいますようお願いいたします。

■ 状況により、出演者、内容などの変更、または中止になる場合がございます。最新情報は事前に本学公式Webサイトにてご確認ください。

■ 就学前のお子様のご同伴、ご入場はご遠慮ください。

■ 開演しますと、お席にお座りいただけない場合もございます。あらかじめ了承ください。



チケットぴあ <https://t.pia.jp/>
ファミリーマート(要事前インターネット予約)、セブン-イレブン(Pコード:222-026)

国立音楽大学書籍売店(宮地楽器) TEL:042-537-8200

宮地楽器ららぽーと立川立飛店 TEL:042-540-6636

宮地楽器小金井店ショールーム TEL:042-385-5585

大学院オペラ《ドン・ジョヴァンニ》によせて

友利 修(国立音楽大学教授)



本年も国立音楽大学主催のオペラ公演を皆様にお知らせする時期がやってきました。毎秋のこの行事は、半世紀以上の歴史を持ち、大学院修士課程のオペラコースの学生たちは、その公演をめざして入学以来研鑽を積みます。学内のオーケストラ陣、合唱陣に支えられ、本格的な演出・衣装・装置とともに実現される舞台は本学の演奏会の中の大きな華となっています。今回の公演は、前2回と異なり、コロナ禍の影響がほとんどのことで、一際喜ばしいものとなるでしょう。

本年の演目は、《ドン・ジョヴァンニ》。大学院オペラ公演の基本レパートリーを成す、W.A.モーツアルトと台本作家ダ・ポンテによる「ダ・ポンテ三部作」の中でも、特に劇的な緊張感に満ちていることで名高い作品です。

ドン・ファンは、日本語でも、次々と女性を誘惑しては捨てていく男性の代名詞のようになっていますが、もともとはスペインの伝説上の人物で、イタリア語での呼び名がドン・

ジョヴァンニ。この伝説は17世紀の前半以来、ヨーロッパで複数の戯曲、オペラによって知られていました。1787年のモーツアルトの作品は、この人物に独特の陰影を与え、誘惑される女性たちをも、それぞれに意思のある個性豊かな存在として描き、伝説を不朽のものとしました。

冒頭から、ジョヴァンニの従者レボレッロの醸し出す喜劇的な雰囲気もそこそこに、ジョヴァンニによる悲劇的な殺人の場面。寝室に忍び込む所業を若い女性に咎められたジョヴァンニは、そこにやってきた彼女の父親を殺してしまいます。娘とその婚約者の復讐の宣言を尻目に、別の女性に目をつけるジョヴァンニ。ところが……。愛憎、笑い、誘惑、官能、欺き、嘆き、怒り……人のあらゆる経験や感情の渦巻く中を通りながら、尚も超然と、行動や考えを変えないジョヴァンニはどこに行き着くのでしょうか。喜劇、悲劇の両方の要素を素晴らしい音楽とともに堪能させてくれる名作の世界にようこそ!

小林 資典 KOBAYASHI Motonori, conductor

千葉県出身。東京藝術大学、および同大学大学院修士課程で指揮法をF.トラヴィス、遠藤雅古に師事。

1998年、平和中島財団奨学生および文化庁海外派遣研究員として渡独、ベルリン芸術大学で学び、2000年よりライン・ドイツ・オペラとコレベティートアして契約した。

2008年、ドルトムント市立劇場の専属指揮者として契約。現在同劇場の音楽総監督代理兼第一カペルマイスターを務める。オペラのレパートリーは多岐にわたるが、とりわけモーツアルト作品指揮に対する評価が高い。

21/22シーズンではサン=サーンスとギロー作曲「フレデゴンド」発掘上演新制作、及び「トスカ」を指揮した。22/23シーズンは「魔笛」新演出を指揮、またハイブルン劇場での「フィガロの結婚」等を指揮する。

またこれまでにマンハイム・オペラ「魔笛」、ベルリン・コミッッシェ・オーパー「ドン・ジョヴァンニ」、ライン・ドイツ・オペラ「白鳥の湖」等を指揮している。

国内では2019年9月、バレエ・アム・ライン デュッセルドルフの初来日公演「白鳥の湖」指揮に抜擢され、絶賛を博した。これまでに関西二期会「ドン・ジョヴァンニ」、大阪交響楽団等に客演。2021年8月、読売日本交響楽団との「三大協奏曲」と「三大交響曲」シリーズでは各方面より絶賛された。



©Jan-Philipp Behr

中村 敬一 NAKAMURA Keiichi, stage director

オペラ演出家。

1957年東京に生まれる。はじめ、武蔵野音楽大学同大学院で声楽を専攻、卒業後、舞台監督集団「ザ・スタッフ」に所属してオペラスタッフとして活躍。以後、鈴木敬介、栗山昌良、三谷礼二、西澤敬一各氏のアシスタントとして演出の研鑽を積む。

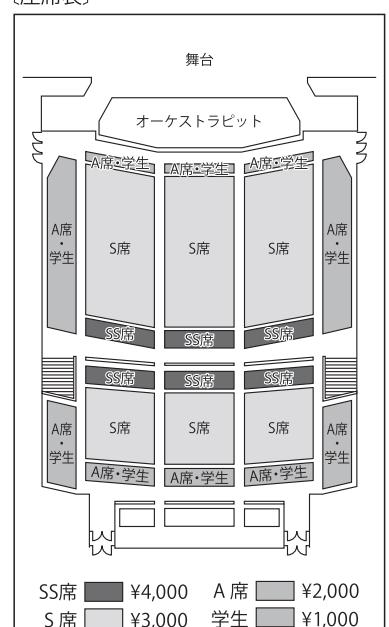
1989年より、文化庁派遣在外研修員として、ウイーン国立歌劇場にて、オペラ演出を研修。帰国後、リメイク版「フィガロの結婚」、二期会公演「ドン・ジョヴァンニ」「ポツペアの戴冠」で、高い評価を得、続く二期会公演「三部作」、東京室内歌劇場公演「ヒロシマのオルフェ」、日生劇場公演「笠地蔵・北風と太陽」で、演出力が絶賛され、1995年ジローオペラ新人賞を受賞する。また、2000年には新国立劇場デビューとなった「沈黙」が、高く評価され、2001年ザ・カレッジ・オペラハウス公演「ヒロシマのオルフェ」で大阪舞台芸術奨励賞を受賞。オペラの台本も手がけ、松井和彦作曲「笠地蔵」「走れメロス」、新倉健作曲「ポラーノの広場」「窓へウィンドウズ」、前田佳世子作曲「どんぐりと山猫」などがある。

音楽的な視点と豊かな感性による舞台づくりは広く認められ、また若い声楽家の指導、オペラの普及に尽力している。

国立音楽大学客員教授、大阪音楽大学客員教授、洗足学園音楽大学客員教授、大阪教育大学講師、沖縄県立芸術大学講師。



〔座席表〕



新型コロナウイルス感染症拡大予防について

対応



事前に全ての出演者・スタッフの検温、体温チェックをし、スタッフはマスクを着用いたします。



建物内は消毒液を設置し、定期的に消毒を行っております。



座席数は状況により、限定する場合があります。

お願い

■ご来場に際しまして、必ずマスクのご着用をお願いいたします。着用されていないお客様はご入場をお断りさせていただきます。

■下記に該当する場合は、ご来場をお控えください。

- ・ご来場前に検温していただき、37.5度以上の発熱がある場合や体調不良の場合
- ・政府所定の帰国・入国後の自宅待機期間に該当する方
- ・新型コロナウイルス感染症陽性とされた方との濃厚接触がある場合

■ご入場前に検温をさせていただき、37.5度以上の方は入場をお断りさせていただきます。入場までにお時間がかかることが想定されますがご了承ください。